

茨城県立並木中等教育学校3年 田崎^{たさき} 遥香^{はるか}

浴衣を着て楽しそうに踊る住民たちの輪。響き渡る笑いの声。みんなの笑顔が帰ってきた。

昨年夏、この公園は立ち入り禁止だった。私の住む地域は、震災による原発事故の影響で放射線量が高かったからだ。

しかし、今年の夏は恒例の夏祭りが開催された。昨今の頃、真夏の広い公園に大きなショベルカーが何台も入り、芝生をはがし、土を削った。大規模なこの作業は、地域の住民の力だけでは到底成し得ることはできない。地域を超えた多くの方による、税金を通しての支援があったことを忘れてはならないと思った。税金のおかげで再び取り戻すことができたのは、緑の芝生が張られた元通りの公園だけではない。子供たちの笑顔、住民の絆、新しい出会い、そしてこれからこの公園でつくられるかけがえのない思い出だ。

私は、税金から受けた恩恵について考えた。中学3年生である私は今年で義務教育が終了する。教育も税金によって賄われている。本棚に並んだたくさんの教科書、多くのことを教えていただいた授業、机、校舎、学校生活を支える全ての環境。一人の人間を育てるために、いったいどのくらいかかるのだろう。小学校からの九年間、たくさんの人に支えられてきたことに改めて気が付いた。

消費税が8%になってから、レジで支払う金額が予想より高くて驚くことがたまにある。でもそのときは、「私が今まで受けた恩恵を、今度は他の誰かにお返しする番だ。」と思うようになった。この社会は、支え合いで成り立っている。税金はそれを形にしたものなのだ。

税金を納め、社会に貢献できるのは社会人になってからだと思っていた。中学生である私に今できることは、お小遣いから消費税を納めることだけだと。しかし、税金について立ち止まって考えてみると、学生である私たちにもできることがあることに気が付いた。

それは、与えていただいた恩恵に感謝し、維持、発展させることだ。例えば、地域の公園だ。きれいに張られた芝生からは雑草が伸びてきた。9月には住民による除草作業が計画されている。たくさんの方が納めた税金で元通りにしていただいた公園だ。私も積極的に参加しようと考えている。次に、これまでに受けた教育だ。教育に税金を使うということは、今の世代の方々から未来の日本を託されていることと同じではないだろうか。日本の貴重な財源からいただいた税金だ。私は一生懸命学習し、社会に役立つ力を身につけたい。そして、よりよい社会の発展に貢献したいと思う。「私に出来ることは何か」と考えて行動すること、それは私も税金をめぐるこの支え合いの輪に入る第一歩だと思った。

税金は、この夏報道されている災害に遭われた方々の救助、生活再建にも使われている。どうか、この日本の制度が人々の幸せにつながって欲しいと心から願う、この制度を守ることは私達の大切な使命なのだと思う。